

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 聖英会
施設名	オリーブの実保育園
報告者（職名）	三好 永恵 （園長）
住所・連絡先	〒468-0061 愛知県名古屋市天白区八事天道301 Tel 052-834-3700 E-mail olivemi@tcp-ip.or.jp

○タイトル（保育計画）

砂場で育つ子どもたちの感性と社会性

○主な助成備品

砂場／土場

1. 実施した保育計画策定の目的

待機児童対策により、平成 27 年 4 月に名古屋市に開園しました。

地下鉄の駅から 100 メートルの立地のビルを改装し、安全で過ごしやすい保育園ですが園庭がありません。子どもたちは毎日近隣の公園まで出かけ、戸外遊びを楽しんでいます。しかしながら近隣の方々も利用する公園では、ダイナミックな砂あそびや、泥んこ遊びをすることができませんでした。

子どもたちが、園の敷地内という移動にも時間がかからない場所で、ゆったりと砂遊びをすることで五感を刺激しながら、大胆に遊ばせたい。また、砂場という小さなコミュニティで、社会性を育みたいという願いの下、園舎の横にある小さなスペースに安全で衛生的な砂場を作ること子どもたちの心豊かな成長、発達に必要な遊びを提供し、未来を生き抜く意思と能力を育てていきたいという目的があります。



2. 具体的な実施内容

《砂場ができました》

園舎の横にある砂利だけのスペースを工事し、一面に砂を敷きつめました。砂は、さらさらの砂と泥だんご用の砂を2種類、場所を仕切って作ってもらいました。砂場の真ん中には、子どもたちの遊びが展開できるように高低2つのテーブルを配置しました。



《泥んこあそびもできるようになりました》

砂場に作ったくぼみに水を流し込み、色の変化を感じたり、ドロドロとした感触や冷たさ、気持ちは五感を刺激します。



3. その成果と評価

今回砂場ができたことで、砂や泥んこで遊ぶ機会を増やすことができました。

特に乳児は、砂に触れない子どもが触れるようになったり、泥んこ遊びをすることで、手足で感触を楽しむことができ、五感の刺激となり、砂遊びが大好きになりました。経験の積み重ねが様々な活動へつながり、あそびの幅も広がりました。

幼児は長時間遊べるようになったため、ごっこ遊びも展開でき、砂場で子ども同士のやりとりや会話も増えてきました。仲間と一緒に大きな山を完成させたり、トンネルを掘って、つながったトンネルの中で手をつないだりすることは大きな達成感を味わうとともに友だち同士の関係が深まります。協力して作業することは話し合いの場を設け、言語の発達を促すとともに伝える喜びを味わうこともでき、満足感を与える活動を繰り返すことができるようになりました。

4. 今後の課題

砂場ができたことで、砂や泥に触れる機会が増えただけでなく経験できる活動の幅も広がりました。どんなに小さな砂場でも、子どもたちの感性と社会性を育む大きな役割を果たします。ダイナミックな砂遊びや泥んこ遊びは、子どもたちの発達の過程でなくてはならないものです。これから更に積み重ねていくことで、もっと体全体を使って大胆に砂遊びや泥遊びをしたり、じっくりと手先や指先を使った遊びを続けていきたいと思います。

五感を刺激し、様々な感触のものに触れることやいろいろな素材に出会うことは、子どもたちの発達においてとても重要な事です。草花にもいろいろな形や手触りがあること、土や砂にも様々な感触があること、強い風や穏やかな風があること、そのほかにも自然現象にはたくさんの不思議があることを、目で見たり、肌で感じたりしながら発見し、それらの経験が更なる探求心を育てます。環境を整えていくことで、より充実した遊びの提供が実現し、豊かな経験を積み重ねていけると考えています。最良の保育を実現し、都会の空の下でたくましく生き生きと活動する子どもたちを育てていきたいと思います。

以上